

小学生のときに埋めたタイムカプセルを開き、当時の思い出の品を見る新成人たち。

思い出の品々は、その当時を思い出し、温かく懐かしい気持ちにさせてくれる。

ふと、過去から現在に至るまでを振り返ると、今こうして自分があるのは、自分一人の力だけではなく、友人や家族の支えがあったからではないだろうか。

「感謝」。

成人を迎え、責任ある社会人として歩き出す今だからこそ、考えてもらいたい。

自分を今まで支えてくれた人の思いに気付くことの大切さ。

そしてそのことに感謝することを。

Nagasaki  
SPECIAL

感謝を重ねて

# 新たな門出

## —長洲町成人式—

家族、地域、友人たちに祝福され、今日という日を迎えた180人の新成人たち。  
新たな決意と誓いとともに、その一歩を踏み出す。

**平** 成25年長洲町成人式は1月13日、ながす未来館で開催されました。今年成人を迎えたのは、平成4年4月2日(平成5年4月1日に生まれた180人。同日はスーツ姿や振袖姿を身にまとった新成人の姿が多く見られました。同日はあいにくの雨にも関わらず、開始前の会場には暗れ姿の新成人が多く集まり、久しぶりの再会に喜んだり、互いの姿を写真に撮ったりする様子が見られ

ました。  
**午** 後2時に開始された成人式には、新成人やその両親、関係者など約230人が出席。町を代表して中逸博光町長が「新成人として社会への新たな船出に、視野を大きく広げ、常に高い理想を持って未来を切り拓いていってほしいと思います」と激励とエールを送りました。また、中学生を代表して長洲中学校生徒会長の平田和法くん(梅田)も新成人に向けてお



祝いの言葉を述べました。  
その後、式典では新成人を代表して松本康佑さん(松原)が中逸町長から成人の証である成人証を受け取り、竹本圭佑さん(清源寺)が「今日というよき日を迎えられたのは、家族、見守ってくれた先生、地域のお蔭です。成人式を迎え、決意を新たに、古里長洲町で育てていただいた心と体を大切にしながら、これからの日々を歩いていきたいと思えます」と誓いの言葉を述べました。  
**こ** の成人式の運営の中、心となるのは、新成人で構成される成人式実行委員会です。式内容に関しても、同実行委員会が企画しています。式典では同実行委員会が製作した「ツナグ」と題した当時の懐かしい映像が収録されたDVDの上映や、新成人全員参加のお楽しみ抽選会などが行われ、一生に一度しかない20歳という節目に、それぞれの思い出に残る式となりました。

# 新成人おめでとう (敬称略)

馬場 頼隆	濱田 柊子	野田 麻衣奈	中村 直人	豊田 晏熙	富安 麻奈美	徳永 翔太	徳永 志穂	竹本 圭佑	武田 秀幸	杉原 卓也	佐伯 栄宙	小浦 康寛	清本 蒼	浦田 千種	内田 力也	井村 湜成	伊藤 亜澄佳	石崎 拓朗	池田 蓮	〔清源寺〕	湯治 哲也	道田 航平	福田 りか	濱岡 晃世	坂上 美聡	工藤 咲	木下 歩美	〔平原〕	福田 瑞希	前畑 芳宏	増永 和馬	松野 祐里	宮辺 豊一	宮本 愛巳	岩野 宏樹	左村 美優	永江 由季	西原 大志	西原 真	西原 莊明	浜口 慎也	濱嶋 拓弥	濱嶋 幹弥	福島 翔	毛利 聖良	山村 愛花	山村 真里奈	吉田 理沙	〔腹赤〕	池本 理菜	田中 奈津美	寺澤 亜希	徳永 友紀	西辻 美咲	福山 良祐	村田 葉里	村本 明	森本 幸宏	〔折地〕	村上 卓治	杉浦 直美	中村 史花	松岡 拓夢	丸山 大希	森 香奈実	吉田 亜紀	吉田 咲嬉	吉田 美貴	吉田 美貴	吉田 美貴	森 香奈実	丸山 大希	松岡 拓夢	中村 史花	杉浦 直美	村上 卓治	出上 卓治	〔立野〕	佐藤 僚介	高尾 絵理香	田上 千晶	原田 創史	古里 溪	前田 峻介	上田 昌美	砂川 美幸	〔向野〕	高木 玲菜	〔葛輪〕	木下 栞	田中 雄大	松川 治樹	〔永方〕	〔塩屋〕	福田 康平	宮島 明日美	宮島 拓紀	〔向野北〕	谷岡 鈴香	松田 昌子	〔古城〕	安達 潤	浦川 紗知瑛	大野 隆紀	澤田 雅史	築山 ちひろ	西田 直樹	野方 陽介	牧嶋 真広	八木 恵梨南	〔建浜〕	池上 朋美	池上 喜樹	下原 龍治	土山 建	寺岡 拓郎	野畑 ひろみ	濱岡 美帆	本田 千晶	〔駒通〕	池上 沙耶花	那須 翔太	〔梅田〕	川本 浩平	坂本 梨理子	〔出町〕	荒田 愛子	稲田 貴一	川下 智之	木下 裕一朗	藤本 結	浦野 創平	宮脇 桐乃	〔新原〕	立山 紋子	松本 康佑	〔新山〕	北本 裕里江	木村 ゆい	長田 健	長本 萌	林 将太	〔西新町〕	長田 亜由美	宮本 貴史	〔宝町〕	福永 文太	松本 希聖	〔磯町〕	梅村 隆希	長本 翔太	〔上町〕	越智 圭亮	徳永 唯香	松龍 綾香	〔今町〕	竹川 明日香	〔下東〕	酒井 円香	長田 修平	淵脇 生愛	宮野 真由香	門前 斐女	〔東荒神〕	北野 龍二	古賀 葵	富田 春香	福島 久美子	堀川 真末	〔大明神〕	梅崎 瞳子	川富 颯太	篠田 真弘	紫牟田 混平	肥實 一馬	増村 葵	松下 泰士	宮本 智絵	〔町外〕	北田 晃将	長野 龍太郎	西田 安里	宮本 紗弥香	森 綾華	坂田 直久	平川 彩乃	西田 勇樹	池上 朱莉	徳永 啓吾	横田 知樹	田上 彩	西坂 糸織	嶋田 優理	藤井 直人	中林 真里佳	光武 笙子	宮内 健成	宮野 優美子	和田 憲政
-------	-------	--------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	--------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	--------	-------	------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	--------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	-------	-------	------	------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	------	------	--------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	--------	------	-------	-------	-------	------	-------	--------	-------	-------	------	--------	-------	------	-------	--------	------	-------	-------	-------	--------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	--------	-------	------	------	------	-------	--------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	--------	------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	------	-------	-------	------	-------	--------	-------	--------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	--------	-------

「おめでとう」。この日を迎えられたことに「ありがとう」の感謝を添えて。



生徒が幸せに過ごせることが私の願いであり思いですね

濱岡さんの恩師（現 玉陵中）

杉野 晃一 先生



美帆と荒田との出来事は今でもはっきり覚えています。日記を通じて悩みを打ち明けてくれた美帆の思いを受けて、自分の何がいけないのか教えてほしいと聞いてくれたような気がしました。何とかしてあげたいと思いました。

私から見て2人の関係はとてよく見えました。互いの話を聞き、「この2人ならやり直せる」「このまま友情をつないでほしい」という思いで、放課後に2人が直接話せる場を設けました。美帆が素直に謝って、またいつもの2人に戻ったときはとてもうれしかったですね。

私は生徒との対話を大事にしています。まずは生徒のことをしっかりと見て、心の変化を観察します。とことん聞きます。そして、その子にとって何が一番いいのか、しっかり考えて本気で伝えます。美帆が悩みを聞いてきてくれたときも、私なりの思いを込めて美帆に伝えたことを覚えています。

2人が今でも仲良くしていて本当にうれしく思います。これから先も優しく、つながってほしいと思います。

# 「ありがとう」を

## いま、伝えたい

私たちは家族、恩師、友達、誰かに、何かに支えられながら年齢を重ねてきた。そこには自分のために行動してくれた人、言ってくれた人がたくさんいる。日常の中にある感謝。そこにある思いとは。2人の新成人に感謝の思いを聞いた。



### 1 「先生と出会えたことに感謝」

親友との確執、その思いを先生にぶつけた

濱岡 美帆さん（建浜）  
Hamaoka Miho

杉野 晃一先生  
Sugino Kouichi

親友 荒田 愛子さん（出町）  
Arata Chikako

## 先生、友情をつないでくれて本当にありがとう

いい思い出がなかったと振り返ります。

卒業後は長洲中学校へ。

そこで親友ができました。名前は荒田愛子さん（出町）。性格の相性も良く、すぐに仲良くなりました。しかし、1年生の3学期になると些細なことから除々に疎遠になり、話をしなくなっていました。親友がいなくなると、学校生活がつまらなくなっていく日々。「仲直りがしたい」。しかし、きっかけがありませんでした。

コメントを添えてくれます。「クラス全員の一人一人の日記にコメントをしてくれるのを見て、私たち一人一人見えてくれる人なんだなと思いました」。濱岡さんは信頼できる杉野先生に日記の中で悩みを打ち明けます。その悩みを聞き、杉野先生から「ストレートに物事を言いつぎる部分があるのではないか」と指摘され、初めて自分の欠点に気付きました。「信頼している先生に言われて初めて気付かされました。そこからストレートに言うのは絶対やめよう、行動に移していこうと心に誓いました」。

1年の3学期の終わりに杉野先生は荒田さんと直接話せる機会を設け、そこで濱岡さんは素直に謝って荒田さんと仲直り。今でも週に何度も会う親友です。「日記をきちんと見てくれたこと、悩みを受け止めてくれたこと、荒田さんとの場を設けてくれたこと、一つ一つの重なりが今の関係につながっています。あのとき先生の言葉ときっかけがなければ、2人の関係は終わっていたかもしれませぬ」。杉野先生のいくつもの思いやりが2人をつないでくれたのです。

先生の一言のおかげで人間になって、思いやりが持てる人間になれたと思えます。小学生のときはケンカばかりしていた濱岡さんは、その出来事をきっかけにそれ以降一度もケンカをしなくなりました。現在、看護学校で看護師を目指して勉強する日々を送る濱岡さんは、「先生から学ばせてもらったことに感謝しながら、今度は自分が社会の中で思いやりを持って人と接していきたいです」そう話し、優しい笑顔を見せていました。

### 色あせることのない思い出と感謝を胸に秘めて



濱岡美帆さん（建浜）は感謝してもしきれない人がいます。それは長洲中学校1年3年の担任の先生だった杉野晃一先生です。濱岡さんには杉野先生との間に忘れられないエピソードがあるとあります。

小学生のころは思ったことをストレートに言う活発な女の子だった濱岡さん。今でこそ年齢を重ねて仲良く過ごしている同級生でも、当時は「人間関係を作ることが下手でした」と本人が言うように、ストレートに伝えてしまいがゆえに友達を傷つけてしまったり、ケンカしてしまったりと、人間関係ではあまり

杉野先生からの温かいコメントが添えられた日記。3年間交わし続けた日記は濱岡さんにとって「宝物」。



—Interview—母の思い  
「私の子どもでいてくれてありがとう」。それが全てですね

母 福永 由利子 さん



文太は流産の危険があった中で生まれてきてくれたこともあり、生まれたときは本当に愛おしく思えたのを覚えています。素直に元気いっぱいに育てたいという思いの反面、「一人親として」というのを意識するあまり、必死になりすぎたり、不安になったりするときもありました。それでも周りの人に支えられながら、ここまで育てることができたと思っています。子どもに気付かされることも多く、子どもが私を親にしてくれたと感じています。

成長していくにつれてぶつかりました。とことんぶつかりました。親として相当悩みました。それでも文太を見捨てることはありませんでした。問題を起こしても「自分の思いに気付いてほしい」という思いでぶつかりました。きっとこの子は気付いてくれるはずと信じて言い続けました。やはり、それは文太が私にとってかけがえのない宝物だからなんだと思います。

大人になっても文太は文太らしくいてくれたらと思います。これから先もいろんな経験をするといいと思います。その中で責任を持って自分で一人考えて、自らの力で切り開いてくれたらと思います。

## 宝

町に住む福永由利子さん・文太さん親子。由利子さんは一人親として幼少のときから今まで文太さんを母として、あるときは父のように育ててきました。そんな文太さんも20歳。今ではとても仲のいい2人でも、ここまでの道のりは決して平たんなものではありませんでした。

は、見たい番組を我慢してサッカーの練習をしていました。テレビを見たいけれど、サッカーにも行かないといけない。そのことで親とケンカをして『サッカーをやめるとまで言ったこともありま。今となつてはいい思い出です』と笑顔で話す文太さん。その後、腹栄中学校でもサッカー漬けの毎日を送ります。そんな文太さんのサッカーを一番身近で応援してくれたのは由利子さんでした。「大事な試合は全部見に来て

くれて応援してくれました。試合のときに作ってくれた弁当がおいしかったことも覚えていますが」。

## 高

校進学するときも、子どもの将来を心配し、どの高校がいいのか、その高校はどういうところで、どういう特色があるのか、一生懸命母は考えてくれたと文太さんは話します。高校2年のサッカーの練習中に足首の靭帯を2カ所断裂し、腓骨骨折で2度の手術をしたときは、由利子さんは市内まで駆けつけ、

入院中、ずっと看病したこともあります。

## し

かし、「あの頃は自分勝手でした」と言うように、市内への高校の進学とともに生活や友人関係などが広がる世界の中で、由利子さんに心配をかけることが多くなりました。高校へ行かず、友人の家に入りびたり、家に帰らないことも多々。由利子さんとぶつかることも多くなりました。卒業後の進学も先生が決めた進路に文太さんは行くことを拒否。由利子さん

## 母ちゃん、20年間育ててくれて本当にありがとう

にも関わらず、戻ってきた後の就職先を探してくれたり、これからのことを考えてくれたりと文太さんに惜しみない愛情を注ぎます。

これまで気付かなかった、宝物を磨き続ける母の愛情。「自分は好きなサッカーをさせてもらったり、進学を考えてくれたりしてもらったのにトラブルばかりを起こして、勘当されるんだらうと覚悟しました。しかし、母は何があっても見捨てずに信じてくれました。その思いに気付いたとき、これまで好きなことをさせてくれた母の愛情、自分への思いを感じました」。息子を信じつづけた由利子さんの愛は、確実に文太さんの心につながっています。

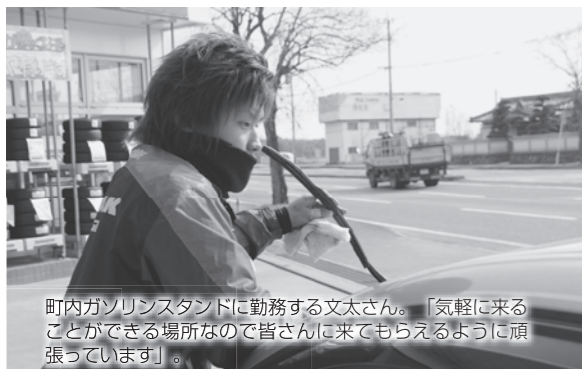
「母には、これまでたくさん迷惑を掛けました。母の愛情で自分は好きなことをさせてもらったりと感じています。今まで支えてもらったから今度は自分の番。家族の中で男一人だから自分がこれからはしっかりして、楽させてやりたいですね」と言った最後には「少しずつです

よ」とはにかんだ文太さん。現在はガソリンスタンドで働く日々。「将来はでっかいことをやりたい」夢はどこまでも広がっています。

普段なかなか気付かない感謝の心。照れてなかなか本人に言えなくても、そこに気付けば思っていることは誰もが同じではないでしょうか。

由利子さんが世界一の愛情を注ぎ続けたやんちゃな息子は、一人の大人として、今、自分で考えしっかりと歩みを進めています。

## 母への感謝の思いを胸に、一步ずつ前へ



町内ガソリンスタンドに勤務する文太さん。「気軽に來ることができる場所なので皆さんに來てもらえるように頑張っています」。



由利子さんが大切に保管している文太さんとの思い出の品の一つが紛れもない「宝物」だ。

## 2 「母の愛情に感謝」

Fukunaga Yuriko

福永 由利子さん  
Bunta  
文太さん(宝町)

# 感謝を重ねて つないでいく

これまで受けてきた感謝への思い。  
その積み重ねが今の自分を創り上げている。  
受けてきた感謝を胸に、今度は感謝される人となって、感謝の思いをつないでいく。  
それが「成人」になった私たちの役割なのかもしれない。



はやく  
玉名市に住む森 綾華さん・駿斗ちゃん（向野北）（左）と中林  
とうこ  
（旧姓前川）真里佳さん・斗豪ちゃん（塩屋）。母となった今、  
「これまで親から受けた愛情と同じようにこの子を育てていきたい」と口を揃えます。これまで受けてきた親の愛情への感謝の思いは、自分の子どもへの愛情へとつながっています。

これまでさまざまな人に支えられてきた新成人たち。その中で成長することができた人、変わることができた人がいます。しかし、そこで終わりではありません。大切なことはその感謝の思いに「気付く」ということです。思いに気付くからこそ、その積み重ねが今の自分を創っていることに気付く、感謝することができるとのことです。

社会の中心となっていく世代として、感謝を重ねる（する）側から重ねられる（される）側へと、次につなげていくことで人から人、世代から世代へとつながります。そして互いを思いやる連鎖は、やがてまちづくりの力につながっていくのでしょ。

感謝の思いに「気付く」、  
「つなげていくこと」、それは成人として大切なことの一つです。年齢を重ねても感謝を重ね続けていくことが「大人の流儀」なのかもしれません。

## 「感謝の心」に気付くことができる大人へ



「長洲町に感謝」  
八尋 和久さん（鷲巣）

「お父さん、お母さんいつもありがとう」  
古賀 葵さん（東荒神）

「一緒に過ごした友達、ありがとう」  
松本 康佑さん（松原）



「みんなに会えて本当に感謝」  
宮内 健成さん（東荒神）

これまで当たり前のように接してくれた家族。恩師、友と過ごした学校生活。  
何気ない日常の中に、自分を支えてくれた人、応援してくれた人がいる。その裏にはその人の思いがある。

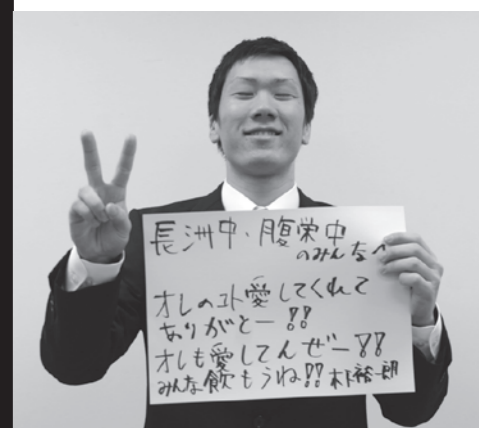


「20年育ててくれてありがとう」  
上田 昌美さん（向野）

成人として社会に出るその前に、振り返ってほしい、自分を支え、応援してくれた人のことを。そして伝えてほしい



「いつも支えてくれて本当にありがとう」  
西坂 糸織さん（東荒神）



「友達みんな、愛してるぜ」  
木下 裕一朗さん（出町）

「ありがとう」

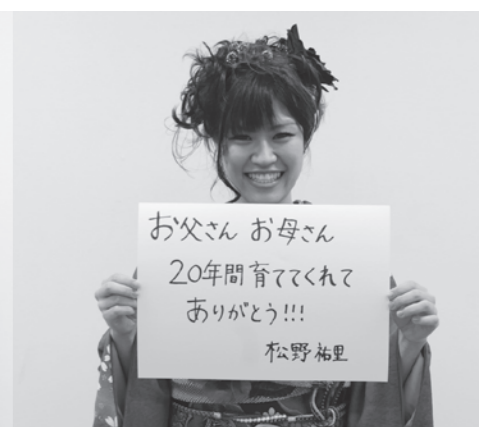
という感謝の言葉を。



「いつもわがまま聞いてくれてありがとう」  
浦田 千種さん（清源寺）



「出会ったみんなにありがとう」  
丸山 大希さん（折地）



「20年間愛情を注いでくれてありがとう」  
松野 祐里さん（清源寺）